

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月9日

【四半期会計期間】 第40期第3四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 B - R サーティワン アイスクリーム株式会社

【英訳名】 B-R 31 ICE CREAM CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 尾崎 仙次

【本店の所在の場所】 東京都品川区上大崎三丁目2番1号

【電話番号】 03(3449)0331

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 渡辺 裕明

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区上大崎三丁目2番1号

【電話番号】 03(3449)0331

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 渡辺 裕明

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第39期 第3四半期累計期間	第40期 第3四半期累計期間	第39期
会計期間		自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
売上高	(千円)	15,315,336	16,042,963	20,058,940
経常利益	(千円)	2,259,511	2,192,750	2,979,984
四半期(当期)純利益	(千円)	1,144,494	1,212,495	1,533,030
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	735,286	735,286	735,286
発行済株式総数	(千株)	9,644	9,644	9,644
純資産額	(千円)	9,699,009	10,535,924	10,092,207
総資産額	(千円)	13,485,823	14,896,648	14,600,677
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	118.77	125.83	159.09
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)	40.00	40.00	80.00
自己資本比率	(%)	71.9	70.7	69.1

回次		第39期 第3四半期会計期間	第40期 第3四半期会計期間
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	91.03	89.50

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため、記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期累計期間（平成24年1月1日～9月30日）における我が国経済は、企業の設備投資や雇用情勢に緩やかな持ち直しの動きが見られるなど、東日本大震災後の厳しい経済環境からは回復基調にあるものの、デフレの影響、長引く電力供給不安、消費税率引き上げ・年金制度改革の議論に加え、欧州金融不安の継続、領土問題による極東アジア地域の政治的不安定等によって、景気の先行きは依然不透明な状況となっています。また個人消費につきましても依然として生活防衛意識や節約志向が続いており、外食産業は厳しい状況下にあります。

このような環境の下で、当社ではサーティワンアイスクリームの永遠の経営モットーであります“ We make people happy. ” 「アイスクリームを通じて人々に幸せを。」をスローガンに、全てのお客様に高品質で美味しいアイスクリームと“ FUN ” に満ちたひとときを提供し、日本で最も愛され親しまれるチェーンとなることを目指すとともに、企業の継続的成長の維持と、企業価値の増大に努めてまいりました。

営業面においては、1月はアイスクリームの詰め合せ商品であるバラエティパックをお買い上げのお客様に、‘スヌーピー’スイーツコレクショングラスをプレゼントするプロモーション（1月1日～1月22日）を実施し、フレーバーのバラエティさ・楽しさを訴え、高単価商品の拡販とヘビーユーザーの再来店を促進いたしました。

2月には「ハッピーバレンタイン」（1月23日～2月14日）として、期間限定の新商品デコポップシューやハート型アイスクリームケーキ“ハートオンハート”、バレンタイン仕様のフレッシュストロベリーサンデーやハッピードール、バレンタインに因んだアイスクリーム4種類（ラブインベリー、キューピッドハート、ラブストラックチーズケーキ、ラブポーションサーティワン）を発売するとともに、店頭店内をバレンタイン一色に飾りつけ、消費者の購買意欲を高めました。

3月の「ひなまつり」（2月15日～3月3日）では、“ひなだんかざり”、“おひなさまカップ”、“苺おひなさまカップ”や、ひなまつり仕様のアイスクリームケーキなど期間限定商品を強化し、オケーション商戦の売上を確保いたしました。

また、季節に合った苺の美味しさをたっぷり味わえる“フレッシュストロベリーサンデー”フェア（3月4日～3月23日）を実施し、アイスクリーム専門店にしかできないサーティワンならではのシーズンサンデーを提供することにより、ブランドの差別化を図りました。

そして3月24日からは、昨年初めて実施し大好評を得た「ワンダフルイースター」（3月24日～4月22日）を今年も実施し、イースターらしいタマゴをモチーフにしたエッグカップサンデーや持帰り商品のイースターバラエティBOX、イースターに因んだアイスクリーム2種類（イースターエッグハント、チョコバナナ）を期間限定販売しております。

ゴールデンウィーク期間中（4月25日～5月6日）はダブルコーン・ダブルカップを31%値引きして提供するキャンペーンを実施し、期間中はTVCMで告知いたしました。

5月7日から5月30日は「ビバレッジプロモーション」を実施し、5月7日新発売の“ピンクストロベリーソーダ”を含めたビバレッジ商品をお買い上げのお客さま全員に‘スヌーピー’ハンドタオルをプレゼントいたしました。

また、誕生日やパーティなどにお使いいただけるバラエティパックの新商品“パーティーボックス”（4月25日新発売）と、お土産や贈り物としてお使いいただける“ギフトボックス”（6月1日新発売）を導入し、テイクアウト需要、ギフト需要の拡充を図りました。

真夏の最盛期には恒例の強力なキャンペーンとして、今年で10年目となります大好評の「チャレンジ・ザ・トリプル」（6月1日～7月16日、ダブルコーン・カップをお買い上げのお客さま全員に1スクープをプレゼント）、更に今年7年目となります「真夏の雪だるま大作戦」（7月21日～9月9日、キングサイズのコーン・カップをお買い上げのお客さま全員にキッズサイズ1スクープをプレゼント）を実施し、どちらもTVCMにより強力にキャンペーン告知をいたしました。

9月は“スタンダードサンデー”をリニューアルし、「バイクドチーズケーキサンデー」「オレオ&ブラウニーサンデー」の2種類を新登場させ、サーティワンでしか味わえない魅力的なアイスクリーム・デザートをお客さまに提供しております。

そして9月の連休に合わせ、ダブルコーン・カップを31%値引きするキャンペーン（9月15日～9月23日）を実施し、お客さまの来店促進を図りました。

なお、5月13日には全国1,064店舗において2時間、ユニセフの募金をしてくださったお客さま全員にレギュラー・シングルコーンを1つプレゼントする社会貢献イベント「フリースクープ」（今年で11年目）を実施し、全国で約83万人のお客さまにご参加いただきました。お客さまよりお預かりした募金と、当社からの寄付金を合わせ、39,048,058円を（公財）日本ユニセフ協会を通じ、東日本大震災被災地の方々の復興支援に役立てていただきました。

店舗開発の状況といたしましては、2009年から新しいロゴの看板と店舗デザイン「Hip Hop」を導入し、店舗イメージ刷新を図っております。新しい店舗は当期48店開設し、当第3四半期末の店舗数は1,120店舗と前第3四半期末に対して45店舗増加いたしました。改装は当期67店実施し、既存店へも新しい店舗デザインの導入促進をいたしました。

以上の結果、当第3四半期の売上高は160億42百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

売上原価は、売上高の増加や原材料の値上げ等の影響により63億47百万円（前年同期比5.8%増）となりました。

販売費及び一般管理費は、75億47百万円（前年同期比6.4%増）となりました。主な増加要因は、業容拡大による人員増や直営店舗数増に伴う人件費の増加（112百万円）、店舗対策費の増加（58百万円）、広告宣伝費の増加（54百万円）、販売促進費の増加（53百万円）及び直営店管理費用の増加（31百万円）と、売上の増加に伴う物量増による物流費の増加（59百万円）であります。

この結果、営業利益21億47百万円（前年同期比3.6%減）、経常利益21億92百万円（前年同期比3.0%減）となりました。

また、四半期純利益は12億12百万円（前年同期比5.9%増）となりました。昨年は東日本大震災に伴う製品廃棄や被災地復興支援のための費用、及び「資産除去債務に関する会計基準」の適用に伴う費用を特別損失に計上しておりましたので、前年同期比では増益となっております。

なお、当社はアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2)財政状態の分析

当第3四半期末における総資産は前事業年度末に比べ2億95百万円増加の148億96百万円となりました。当累計期間では店舗数増加に伴う製品需要増に備えた製品の増加、新規出店による賃貸店舗用設備、直営店舗用設備、敷金及び保証金の増加や富士小山工場耐震補強工事による建物の増加等により総資産は増加いたしました。

負債は前事業年度末に比べ1億47百万円減少の43億60百万円となりました。これは、主に法人税等の支払により未払法人税等が減少したためであります。

純資産は前事業年度末に比べ4億43百万円増加の105億35百万円となりました。これは主に当第3四半期累計期間の四半期純利益が前事業年度の期末配当金の支払額及び当事業年度の間配当金の支払額を超えたため、繰越利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3)事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当社は、バスキン・ロピンス・フランチャイズド ショップス エルエルシーと“ライセンスおよび技術援助契約”を締結しており、アイスクリーム研究開発については同社で実施しているため、研究開発費は発生しておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,003,000
計	38,003,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,644,554	9,644,554	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	9,644,554	9,644,554		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日		9,644,554		735,286		241,079

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 8,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式9,635,000	96,350	
単元未満株式	普通株式 1,054		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	9,644,554		
総株主の議決権		96,350	

(注) 1 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式61株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) B - R サーティワンアイ スクリーム株式会社	東京都品川区上大崎 三丁目2番1号	8,500		8,500	0.09
計		8,500		8,500	0.09

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年1月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,239,687	3,201,454
売掛金	3,045,929	3,078,788
製品	640,353	834,298
原材料	335,519	239,343
貯蔵品	218,569	218,195
前渡金	11,871	11,966
前払費用	134,707	119,870
繰延税金資産	93,748	92,778
未収入金	28,062	57,544
その他	30,457	54,573
貸倒引当金	10,304	14,846
流動資産合計	7,768,602	7,893,967
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,522,471	1,867,323
減価償却累計額	1,092,515	1,124,600
建物(純額)	429,955	742,723
構築物	195,248	195,248
減価償却累計額	156,970	159,019
構築物(純額)	38,278	36,228
機械及び装置	2,052,109	2,053,994
減価償却累計額	1,589,977	1,637,493
機械及び装置(純額)	462,132	416,500
賃貸店舗用設備	2,881,849	3,002,054
減価償却累計額	1,520,945	1,571,237
賃貸店舗用設備(純額)	1,360,903	1,430,817
直営店舗用設備	313,768	375,545
減価償却累計額	97,065	128,417
直営店舗用設備(純額)	216,703	247,127
車両運搬具	37,294	55,932
減価償却累計額	18,751	22,684
車両運搬具(純額)	18,542	33,247
工具、器具及び備品	655,795	667,005
減価償却累計額	470,297	518,896
工具、器具及び備品(純額)	185,498	148,109
土地	695,362	695,362
建設仮勘定	268,230	63,826
有形固定資産合計	3,675,607	3,813,943

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年9月30日)
無形固定資産		
ソフトウェア	194,889	162,213
電話加入権	17,065	17,065
無形固定資産合計	211,954	179,278
投資その他の資産		
投資有価証券	24,949	29,595
従業員に対する長期貸付金	12,013	11,131
破産更生債権等	236,615	240,143
長期前払費用	530,922	532,942
繰延税金資産	132,961	131,919
敷金及び保証金	2,080,835	2,147,476
その他	19,685	20,920
貸倒引当金	93,470	104,670
投資その他の資産合計	2,944,512	3,009,458
固定資産合計	6,832,074	7,002,681
資産合計	14,600,677	14,896,648
負債の部		
流動負債		
買掛金	529,888	505,065
未払金	1,210,192	1,132,820
未払費用	27,477	28,322
未払法人税等	566,660	377,035
未払消費税等	37,509	51,127
前受金	540,768	503,628
預り金	106,009	153,435
賞与引当金	32,571	100,676
役員賞与引当金	17,000	13,000
その他	59,489	66,861
流動負債合計	3,127,566	2,931,973
固定負債		
退職給付引当金	143,012	158,604
役員退職慰労引当金	65,400	74,400
資産除去債務	73,261	80,845
長期預り保証金	1,099,228	1,114,900
固定負債合計	1,380,902	1,428,750
負債合計	4,508,469	4,360,723

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	735,286	735,286
資本剰余金		
資本準備金	241,079	241,079
資本剰余金合計	241,079	241,079
利益剰余金		
利益準備金	168,676	168,676
その他利益剰余金		
別途積立金	4,140,000	4,140,000
繰越利益剰余金	4,836,010	5,277,626
利益剰余金合計	9,144,687	9,586,303
自己株式	16,893	16,893
株主資本合計	10,104,159	10,545,774
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	833	849
繰延ヘッジ損益	11,117	10,700
評価・換算差額等合計	11,951	9,850
純資産合計	10,092,207	10,535,924
負債純資産合計	14,600,677	14,896,648

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	15,315,336	16,042,963
売上原価	5,996,912	6,347,474
売上総利益	9,318,423	9,695,488
販売費及び一般管理費	7,091,627	7,547,935
営業利益	2,226,796	2,147,553
営業外収益		
受取利息	581	415
店舗用什器売却益	40,246	55,128
その他	10,538	7,933
営業外収益合計	51,366	63,477
営業外費用		
店舗設備除去損	17,312	16,566
その他	1,339	1,713
営業外費用合計	18,651	18,280
経常利益	2,259,511	2,192,750
特別利益		
固定資産売却益	-	12,760
受取保険金	9,076	-
その他	1,846	-
特別利益合計	10,923	12,760
特別損失		
固定資産売却損	-	10,544
固定資産廃棄損	13,758	15,260
災害損失	223,458	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	26,009	-
特別損失合計	263,226	25,805
税引前四半期純利益	2,007,208	2,179,704
法人税等	862,714	967,209
四半期純利益	1,144,494	1,212,495

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当事業年度の予想税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

当第3四半期累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	
第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

前第3四半期累計期間(自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)及び当第3四半期累計期間(自24年1月1日 至平成24年9月30日)

当社では、主として夏季に需要が伸びる製品の製造・販売を行っているため、第2、第3四半期会計期間の販売実績が、他の四半期会計期間に比べて高くなっております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
減価償却費	743,387千円	760,094千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年3月25日 定時株主総会	普通株式	433,621	45.0	平成22年12月31日	平成23年3月28日	利益剰余金
平成23年7月26日 取締役会	普通株式	385,439	40.0	平成23年6月30日	平成23年9月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月23日 定時株主総会	普通株式	385,439	40.0	平成23年12月31日	平成24年3月26日	利益剰余金
平成24年7月23日 取締役会	普通株式	385,439	40.0	平成24年6月30日	平成24年9月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社はアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	118円77銭	125円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	1,144,494	1,212,495
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	1,144,494	1,212,495
普通株式の期中平均株式数(株)	9,636,009	9,635,993

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成24年7月23日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、平成24年6月30日の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、中間配当を行いました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....385百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....40円00銭

(ハ) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日...平成24年9月4日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月8日

B - R サーティワン アイスクリーム株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小 澤 元 秀

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているB - R サーティワン アイスクリーム株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの第40期事業年度の第3四半期会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年1月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、B - R サーティワン アイスクリーム株式会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。